

2018 年度

福山大学 学生生活アンケート 調査結果報告書



福山大学 学生委員会

はじめに	1
1. 学生生活アンケート調査の目的	1
2. 学生生活アンケート調査の調査項目	1
3. 学生生活アンケート調査の実施方法	2
4. 学生生活アンケート調査の集計方法	2
5. アンケート集計結果	2
A. 回答者の情報	2
B. 回答者の考え方と思い	3
C. 回答者の行動と活動	4
D. 回答者の経済的状況	5
E. 回答者の時間の使い方	7
F. 回答者の健康と安全	9
G. 回答者の人間関係	11
H. 大学をよくするための回答者からの提案	11
6. 集計結果から推定される本学学生の傾向	12
7. おわりに	13
8. 付録（大学をよくするための回答者からの提案）	14

はじめに

福山大学学生委員会では学生のみなさんが充実した学生生活を過ごせるよう、各種案件について協議・検討を行っている。なかでも学生生活の現状を把握することは、学生生活指導のみならずキャンパスライフの質的向上の緒となる。本委員会では、平成 26(2014)年度から学生生活全般に関する学生の意見・要望を把握するために、「学生の要望に対するアンケート調査」を実施し、キャンパス施設・交通手段・衛生面等の満足度を調査し、要望の切迫性や対応までに要する時間等を考慮しながら分類し対応している。

このような状況のもと、平成 30(2018) 年度においては、学生の意見・要望もさることながら、学生生活の実態を把握し、学生生活指導へのフィードバックを行うべく、学生生活を中心とした「2018 年度福山大学学生生活アンケート」を実施した。今回のアンケートでは、学生生活全般に対する質問項目を中心に引き上げ、従前のアンケートにあったキャンパス施設・交通手段・衛生面等については、自由記述欄を設けて意見をくみ取ることとした。

本アンケートについては、学生委員会研究小委員会を中心に、設問項目の草案作成ならびに結果のまとめを頂いた。また、アンケート実施に際しては、本学の ICT サービス部門に依頼し、集計を頂いた。この場をお借りして、ご尽力に厚く御礼を申しあげる。今後は、学生生活指導への指針として本結果を活用するとともに、大学に求められる改善点の抽出を行い、関係各部署とアンケート結果の情報を共有し、改善への施策を検討して行きたい。

平成 31 年 3 月 20 日

学生委員長
田中 哲郎

1. 学生生活アンケート調査の目的

学生が大学での学修や研究活動に取り組むことは、本来の使命である。一般的に、大学生は 20 歳前後の青年期であり、身体能力、健康、意欲などが人生で最も充実する時期でもあり、学生が大学での学修や研究活動に加えて、課外活動や社会活動などに活発に参加して、充実した学生生活を送ることは重要である。また、大学にはそれを積極的に支援することが求められている。福山大学学生委員会では、学生生活の充実を支援するために必要な情報を収集することを目的として、学生の生活全般についてアンケート調査を実施した。

2. 学生生活アンケート調査の調査項目

学生生活アンケート調査の調査項目は、福山大学学生委員会研究小委員会が原案を作成した。他大学及び団体が実施している学生生活調査の設問項目を参考にしながら、A 回答者の情報（質問 1～質問 5）、B 回答者の考え方と思い（質問 6～質問 8）、C 回答者の行動と活動（質問 9～質問 14）、D 回答者の経済的状況（質問 15～質問 20）、E 回答者の時間の使い方（質問 21～質問 27）、F 回答者の健康と安全（質問 28～質問 35）、G 回答者の人間関係（質問 36～質問 37）、及び H 大学をよくするための回答者からの提案（質問 38～質問 41）という 8 つの分類で 41 項目の質問を設定した。

3. 学生生活アンケート調査の実施方法

学生生活アンケート調査は、平成 30（2018）年度に本学に在籍する学部学生 3,722 人を対象者として、平成 30 年 12 月 10 日～平成 31 年 1 月 20 日までの 1 か月間に調査を実施した。回答は本学が学修支援ソフトウェアとして導入している“Cerezo”のアンケート機能を利用してネットワーク上で実施した。学部学生には、学修ポータルサイト“Zelkova”から回答を依頼すると共に、各学科の学生委員からも回答を依頼した。回答者数は 1,016 人で回答率は 27.3%であった。

4. アンケート集計方法

学生生活アンケート調査の回答結果は、共同利用センターの ICT サービス部門に依頼して集計した。ICT サービス部門は回答者と回答を切り離し、各質問に対する各選択肢の選択数を学生委員会研究小委員会に報告している。当初、学生委員会研究小委員会は、クロス解析によりデータの活用精度を高めることを計画していたが、今回はそれをできなかったため、単純に集計して回答の分布数と分布のパーセント表示とした。

質問 39 及び質問 41 は自由記述により回答を求めた。1 人の回答に複数の意見等が記載されている場合は、内容ごとに分割して複数の意見として取り扱った。特定個人、特定部署、特定団体を非難する内容が含まれる場合は、特定できないように修正し、また、回答文に明らかな誤字・脱字等がある場合は、それを修正して本報告書末尾に付録として添付した。

5. アンケート集計結果

A 回答者の情報

学生生活アンケート調査では、回答者群ごとに回答に傾向が存在する可能性が予測される。調査結果から利用価値が高く、精度の高い情報を得るために、回答者群と回答内容のクロス解析は有効である。そのため、調査項目 A では、回答者の情報として所属学部、学年、性別、通学手段、及び住居の形態の情報を収集した。

質問 1 あなたの所属する学部を教えてください。

回答者の所属する学部の分布は、表 1 に示すように薬学部が 39.8% で最も多く、次いで生命工学部、工学部が続く。経済学部及び人間文化学部は 10% に至らなかった。各学部の在籍学生数を基にした回答率を表 A に示した。学部別の回答率は薬学部、生命工学部及び工学部がそれぞれ 46.9%、37.0%、及び 25.2% で理系学部の回答率が高く、逆に経済学部、及び人間文化学部では低かった。回答者の分布に著しい偏りが存在し、本アンケート調査の結果から全学の傾

向を平均的に求めることは難しいと推測された。学部毎の分析が必要であるが、データが回答者と分離されているため、研究小委員会では分析できなかった。

今後の実施にあたっては、回答率の向上とともに、回答率の文系学部ならびに理系学部間のアンバランスを改善する必要がある。回答時期ならびに回答期間を再検討するとともに、アンケート実施の周知徹底を図る必要がある。

表1 回答者の所属学部

回 答 内 容	回答数	%
経 済 学 部	90	8.9
人間文化学部	79	7.8
工 学 部	163	16.0
生命工学部	280	27.6
薬 学 部	404	39.8
合 計	1,016	100.0

表A 学部別回答率

学 部	回答数	在籍者数	%
経 済 学 部	90	959	9.4
人間文化学部	79	499	15.8
工 学 部	163	646	25.2
生命工学部	280	757	37.0
薬 学 部	404	861	46.9
合 計	1,016	3,722	27.3

質問 2 あなたの学年を教えてください。

回答者の学年分布は、表 2 に示すように 1 年次生が 34.8% で最も多く、次いで 3 年次生、4 年次生と続く。薬学部学生の 5 年次生及び 6 年次生の回答率は著しく低かった。各学年の在籍学生数を基にした学年別回答率を表 B に示した。学年別の回答率は 1 年次生が最も高く表 2 と同じ傾向であった。

表2 回答者の所属学年

回 答 内 容	回答数	%
1年次生	354	34.8
2年次生	173	17.0
3年次生	264	26.0
4年次生	201	19.8
5年次生	8	0.8
6年次生	16	1.6
合 計	1,016	100.0

表B 学年別回答率

学 年	回答数	在籍者数	%
1年次生	354	911	38.9
2年次生	173	910	19.0
3年次生	264	858	30.8
4年次生	201	748	26.9
5年次生	8	144	5.6
6年次生	16	151	10.6
合 計	1,016	3,722	27.3

質問3 あなたの性別を教えてください。

表Cに示すように、本学学部学生の男女学生数は男性：2548人、女性：1174人で、男女の割合は男性68.5%、女性31.5%であり、男女比は2.17である。表3に示すように、本アンケート調査の回答者の男女比は1.32であった。女性の割合が高く、女性の意見が強くなる傾向が出る可能性がある。なお、調査項目作成時に、男性と女性に加えて「その他」を設ける意見が出されたが、今回の調査では設けなかった。実施した結果、数人の学生が「その他」と回答していた。次回から回答選択肢に「その他」を設ける必要があることが示された。

表3 回答者の性別

回 答 内 容	回答数	%
男性	559	56.6
女性	423	42.8
その他	6	0.6
合 計	988	100

表C 性別回答率

学 年	回答数	在籍者数	%
男 性	559	2,548	21.9
女 性	423	1,174	36.0
合 計	982	3,722	26.4

質問4 あなたの通学の交通手段を教えてください。ただし、〔1. 徒歩〕は、徒歩のみで大学まで通学する人が該当します。最寄りの駅やバス停まで徒歩で行く人等は該当しません。

本学学生のうち、通学時にスクールバスを利用する学生が33.7%と高く、スクールバスが重要な通学手段となっていることが示された。スクールバスを利用する学生の中には、松永駅まで電車で通学する学生、及び松永駅の徒歩圏内

に居住する学生が含まれている。表2の結果より、回答者に1年次生の割合が高いことが、スクールバスを利用する学生の割合が高くなっていることに影響している可能性が考えられる。

表4 通学の交通手段

回 答 内 容	回答数	%
徒 歩	144	8.6
自転車	211	12.6
原付・バイク	99	5.9
自動車	266	15.9
公共バス	67	4.0
スクールバス	566	33.7
電 車	325	19.4
合 計	1,678	100

質問5 あなたの住居について教えてください。

本学学生の出身地は、広島・岡山県内が多く、「自宅」から通学する学生の割合が高い。自宅あるいは下宿という住居の形態により、課外活動、アルバイトあるいは学習時間等への影響を調査するために、本調査項目を設けている。

表5 住居の形態

回 答 内 容	回答数	%
自宅(親類宅を含む)	584	57.9
下宿(賃貸アパート等)	354	35.1
本学の学生寮	67	6.6
その他	3	0.3
合 計	1,008	100.0

B 回答者の考え方と思い

B“回答者の考え方と思い”では、学生が学生生活に期待していることを把握するために、本学学生の価値観や思いを調査した。

質問6 大学生活において一番大切にしているものは何ですか。

本学学生が最も大切にしていることを尋ねる本項目では、表6に示すように、約5割の学生が「大学での学修や研究」を最も大切なことと考えている。次いで「友人関係」、「趣味や娯楽」が続いている。学生本来の目的の認識が高い学生が多いことが示された。

表6 一番大切にしているもの

回 答 内 容	回答数	%
大学での学修や研究	488	48.5
クラブやサークル、学友会など	39	3.9
友人関係	247	24.6
趣味や娯楽	110	10.9
アルバイト	20	2.0
その他	24	2.4
特になし	78	7.8
合 計	1,006	100

質問7 大学生活において、項目7で回答したものの次に大切にしているものは何ですか。

本項目は質問6との関連項目である。質問6では2番目及び3番目であった「友人関係」及び「趣味や娯楽」が、表7ではそれぞれ1番目及び2番目となっていた。質問6及び質問7の一番目に大切にしていること、及び2番目に大切にしていることを合わせると約8割の学生が「大学での学修や研究」「友人関係」「趣味や娯楽」を大切にしていることが示された。

表7 二番目に大切にしているもの

回 答 内 容	回答数	%
大学での学修や研究	203	20.5
サークル等の課外活動	67	6.8
友人関係	338	34.2
趣味や娯楽	210	21.2
アルバイト	70	7.1
特になし	101	10.2
合 計	989	100.0

質問8 授業以外の学生生活は充実していますか。

質問6では、最も大切にしていることとして約5割の学生が「大学での学修や研究」を挙げている。質問7では2番目に大切にしていることとして5割以上の学生が「友人関係」または「趣味や娯楽」を挙げている。本項目ではそれらの充実度を訪ねている。「充実している」「やや充実している」と回答した学生数を合わせると78.1%に達しており、授業以外の学生生活はほぼ充実していると判断された。授業等の学修の充実度については「学生による授業評価アンケート」で調査されており、本調査では実施していない。

表8 学生生活は充実しているか

回 答 内 容	回答数	%
とても充実している	284	28.2
やや充実している	502	49.9
あまり充実していない	122	12.1
全く充実していない	22	2.2
考えたことはない	77	7.6
合 計	1,007	100.0

C 回答者の行動と活動

本学学生の約8割が学生生活は充実していると回答している。諸行事への参加、アルバイトの実情、収入等、学生生活の実態を詳細に調査した。

質問9 三蔵祭、学長杯争奪スポーツ大会、本学オープンキャンパスなどの大学行事に参加したことがありますか。大学や学部の行事なら何でも結構です。

大学主催の諸行事に参加経験のある学生の割合は、「主催者側として積極的な参加」及び「見物や応援参加」を合わせると79.5%に上り、本学主催の諸行事が学生に受け入れられていると考えられる。本アンケート調査の質問41では大学主催行事の改善提案を求めているが、大学祭に116件もの改善提案があった。

表9 大学行事への参加

回 答 内 容	回答数	%
主催者側として積極的に参加したことがある	441	44.0
見物や応援等で参加したことがある	356	35.5
参加したことがない	205	20.5
合 計	1,002	100.0

質問10 学内外のクラブやサークル活動に参加していますか。

学内外のクラブ活動やサークル活動に参加する学生は44.7%であり、55.3%の学生はクラブ活動やサークル活動には参加していない。参加している学生の多くは、学内のクラブサークルに参加していることが示された。全国的な大学生のサークル等への加入率は約55%という調査結果（カレッジナビ、<https://karenavi.com/>）が

あり、それと比べると、本学の加入率はやや低いと考えられる。本調査では理系学部の学生の回答率が高いため、加入率が低かった可能性もある。しかし、カレッジナビの調査では理系学生と文系学生のサークル加入率に大きな違いはないという調査結果もあり、詳細は不明である。

表10 学内外での活動への参加

学 部	回答数	%
学内スポーツ系クラブに参加している	187	17.6
学内文化系のクラブに参加している	203	19.2
学外スポーツ系クラブに参加している	62	5.8
学外文化系クラブ等に参加している	22	2.1
クラブ等には参加していない	586	55.3
合 計	1,060	100.0

質問 11 大学入学後に“アルバイトをしている”、または“アルバイトをした”ことがありますか。

アルバイトに従事する学生が、どのような職種で働いているのか調査した。飲食店でのアルバイトが 30.5%と最も多く、次いで販売等が 25.0%となり、両者を合わせると 5 割を超えていた。「アルバイトをしたことがない」学生の割合が 19.3%であった。これは、本調査の回答者に 1 年次生の割合が高いことが影響している可能性がある。

表11 大学入学後のアルバイトの経験

回 答 内 容	回答数	%
家庭教師、学習塾講師等のアルバイトをした	97	9.7
販売等のアルバイトをした	250	25.0
飲食店でアルバイトをした	305	30.5
軽作業のアルバイトをした	44	4.4
重労働のアルバイトをした	18	1.8
1～5の内容ではない、アルバイトをした	93	9.3
アルバイトをしたことはない	193	19.3
合 計	1,000	100

質問 12 あなたがアルバイトに従事する主な目的は何ですか。

質問 11 では約 8 割の学生がアルバイトの従事経験があることが判明した。本項目では、アルバイトの目的を調査した。「趣味や娯楽の資金にするため」が最も多く 22.7%、「欲しいものを購入するため」が 18.2%と続いていた。また、回答総数が回答者数の約 2 倍になっているのは、アルバイト目的が複数であるためである。「生活費を賄うため」及び「学費の一部を賄うため」という回答も多く、両者を合わせると 22.1%となり、経済的に厳しい学生も少なくないことが示された。

表12 アルバイトの目的

回 答 内 容	回答数	%
学費の一部を賄うため	154	7.0
生活費を賄うため	331	15.1
サークル活動のため	35	1.6
趣味や娯楽の資金にするため	498	22.7
旅行の資金にするため	217	9.9
欲しい物を購入するため	399	18.2
社会経験として	329	15.0
その他	56	2.5
アルバイトをしたことはない	179	8.1
合 計	2,198	100.0

質問 13 福山大学キャンパスの中で一番よく滞在している場所はどこですか。

学生がキャンパス内でよく滞在する場所を整備することは重要であり、それを把握しておく必要がある。表 13 に示すように、学生の滞在先の場所は、「教室」が最も多く 62.5%であった。次いで「研究室やゼミ室」12.9%であるが、これは 4 年次生以上の学生と推定される。

表13 大学内で一番よく滞在先の場所

回 答 内 容	回答数	%
教室	627	62.5
研究室・ゼミ室	130	12.9
図書館	41	4.1
1号館学生ホール	71	7.1
サークルの練習場所等	18	1.8
学生食堂	24	2.4
学内のフリースペース	45	4.5
その他	48	4.8
合 計	1,004	100.0

質問 14 福山大学キャンパスの中で二番目によく滞在している場所はどこですか。

学生が 2 番目によく滞在する場所を尋ねるこの質問では、教室や研究室を回答する学生も多い。それ以外の場所では、学生食堂（16.2%）、学内（12.8%）、フリースペース（図書館

（11.1%）、1 号館学生ホール（8.8%）と多様な場所が挙げられている。質問 39 でキャンパス内の施設や設備等の改善意見を求めた結果、710 件の意見や提案があった。その中で、休憩場所の設置に対する要望の多く、改善が必要な施設であることが示された。

表14 大学内で二番目に滞在する場所

回 答 内 容	回答数	%
教室	176	17.7
研究室・ゼミ室	164	16.5
図書館	110	11.1
1号館学生ホール	110	8.8
サークルの練習場所等	37	3.7
学生食堂	161	16.2
喫茶室(Fu's Café)	13	1.3
学内のフリースペース	127	12.8
その他	97	9.7
合 計	995	100

D 回答者の経済的状況

質問 15 1 か月の収入の中で、一番多い収入は何ですか。

本項目では、学生の収入源について調査した。家庭からの給付、奨学金、及びアルバイトがそれぞれ約 30%であった。

表15 1か月の収入で一番多い収入

回 答 内 容	回答数	%
家庭からの給付	336	33.6
奨学金	291	29.1
アルバイト	341	34.1
その他の収入	31	3.1
合 計	999	100.0

質問 16 1 か月の収入の中で、二番目に多い収入は何ですか。

1 か月の収入で 2 番目に多い収入源を尋ねた本項目では、質問 15 での回答以外に収入がない学生が 31.6%で最も多かったが、家庭からの給付

やアルバイトの収入などの複数の収入減を確保している学生が約 6 割であった。

表16 1か月の収入で一番多い収入

学 部	回答数	%
家庭からの給付	255	25.6
奨学金	141	14.2
アルバイト	241	24.2
その他の収入	44	4.4
項目15の回答以外の収入はない	315	31.6
合 計	996	100.0

質問 17 1 か月の収入はどれくらいですか。家庭からの給付を含めて回答してください。

1 か月の収入額について調査した。2 万円から 5 万円の収入を得ている学生がもっとも多く m 43.8%であった。なお、本項目では回答選択肢の設定に誤りがあり、10 万円～15 万円未満の選択肢が設定されていなかった。回答数が回答者数とほぼ同じ 1,002 人であることから、該当する学生は少なかったと推定される。また、回答したくないという回答した学生が 24.4%と多かった点も本項目の特徴である。

表17 1か月の収入額

回 答 内 容	回答数	%
2万円未満	130	13.0
2万円以上～5万円未満	439	43.8
5万円以上～10万円未満	171	17.1
15万円以上	18	1.8
回答したくない	244	24.4
合 計	1,002	100.0

質問 18 1 か月の支出の中で、一番多い支出は何の費用ですか。

質問 18 に関する評価は質問 19 と共に行う。

表18 1か月の支出で一番多い支出

回 答 内 容	回答数	%
住居費	179	18.0
食事や衣類等の購入	426	42.8
修学に必要な経費	39	3.9
サークル等の活動	10	1.0
公共料金	19	1.9
通信費(携帯電話等)	26	2.6
娯楽費(交際費を含む)	238	23.9
その他の経費	59	5.9
合 計	996	100.0

質問 19 1か月の支出の中で、二番目に多い支出は何の費用ですか。

質問 18 及び質問 19 では、支出の費目について回答を求めた。これらの項目では、選択肢の「修学に必要な経費」には授業料を含んでいないため、それぞれ 3.9% 及び 4.4% と低かった。質問 18 及び質問 19 で多かったのは、いずれも「食費や衣類等の購入費用」及び「娯楽費（交際費を含む）」であった。

表19 1か月の支出で二番目に多い支出

回 答 内 容	回答数	%
住居費	87	8.8
食事や衣類等の購入	332	33.5
修学に必要な経費	44	4.4
サークル等の活動	26	2.6
公共料金	82	8.3
通信費(携帯電話等)	48	4.8
娯楽費(交際費を含む)	252	25.4
その他の経費	120	12.1
合 計	991	100.0

質問 20 あなたが所有する、または専ら占有できるものがありますか。

質問 20 では、学生個人が占有できる比較的高額な物品の所有について尋ねた。この質問に対して回答した学生数が 166 人と少なく、他の質問に対する回答者数と比べて極めて少なかった。「携帯電話を占有所有している」回答者数は 52 人であった。現状では、ほぼ 100% の学生が携帯電話を所有している事実と著しく乖離している。おそらく、この質問の意図や回答方法を理解できない学生が多かったと思われる。次の調査では設問方法の改善が必要である。

表20 所有して占有できるもの

回 答 内 容	回答数	%
自動車	39	23.5
オートバイ(原付等を含む)	18	10.8
自転車	27	16.3
携帯電話	52	31.3
ルームエアコン	5	3.0
デスクトップパソコン	6	3.6
ノートパソコン等	11	6.6
テレビ	2	1.2
携帯音楽プレーヤー	6	3.6
合 計	166	100.0

E 時間の使い方

質問 21～質問 27 では、学生の時間の使い方を調査した。授業、自宅学習、課外活動、アルバイトなど多忙な日常生活の中での学生の時間配分を知ることは、学生指導の参考となるはずである。

質問 21 片道の通学時間はどれくらいかかりますか。

質問 5 に示されたように、本調査の回答者のうち 57.9% が自宅から通学する学生である。本学キャンパスへの通学が可能な範囲は、一般的に東西は岡山市から東広島市の範囲であることが予想された。しかし、調査結果からは通学時間が 30 分未満の学生が最も多く 44.8%、1 時間以内の学生が 74.4% であり、比較的通学時間が短いことが示された。

表21 片道の通学時間

回 答 内 容	回答数	%
30分未満	447	44.8
30分以上1時間未満	295	29.6
1時間以上1時間30分未満	185	18.6
1時間30分以上以上2時未満	56	5.6
2時間以上	14	1.4
合 計	997	100.0

質問 22 平日の帰宅時刻は何時くらいですか。曜日等により異なるかもしれませんが、いちばん多い時刻を教えてください。

本項目では平日の帰宅時刻について回答を求めた。本学では概ね 4 時限で授業を終了するため、午後 4 時 30 分には帰宅準備に入ることができる。理系学部で実験科目がある場合も、概ね午後 6 時には帰宅準備に入ることができる。調査結果では、午後 7 時までに帰宅する学生が 65.3% であり、これらの学生は、寄り道をせずに帰宅していることが分かる。一方、16.3% の学生の帰宅時刻が午後 9 時以降であった。これらの学生は課外活動やアルバイトに従事し、帰宅が遅くなっていると推定される。帰宅時刻が翌日午前 1 時を過ぎる 1.0% の学生については、学修や健康面に心配がある。

表22 平日の帰宅時刻

回 答 内 容	回答数	%
概ね午後5時までに帰宅している	208	20.9
午後5時～午後7時の間に帰宅している	442	44.4
午後7時～午後9時の間に帰宅している	183	18.4
午後9時～午後11時の間に帰宅している	123	12.3
午後11時～翌日の午前1時の間に帰宅している	30	3.0
翌日の午前1時以降に帰宅している	10	1.0
合 計	996	100.0

質問 23 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業・学生実験等の課題・予習・復習に充てていますか。

本学では、「学生による授業評価アンケート」で、それぞれの授業科目について授業時間外の学習時間を調査しているが、全体を合わせた1週間当たりの予習・復習の時間は調べていない。本項目の調査結果では、「1時間以上5時間未満」と回答する学生が46.9%で最も多かった。1時間以内という回答を合わせると1週間当たり5時間未満の学生が77.1%を占めており、学習時間が極めて少ないことが危惧される。

表23 1週間の授業以外の学習時間

回 答 内 容	回答数	%
1時間未満	300	30.2
1時間以上5時間未満	467	46.9
5時間以上10時間未満	120	12.1
10時間以上15時間未満	45	4.5
15時間以上20時間未満	24	2.4
20時間以上	39	3.9
合 計	995	100.0

質問 24 学内外のクラブやサークル活動には、平均的に1週間に何時間くらいを充てていますか。

質問 22 では、帰宅時刻が午後9時より遅くなる学生については、サークル活動などが理由と推定した。クラブやサークル活動に参加している学生の約5割が1週間当たり1時間から9時間を活動に費やしており、時間的負担は比較的軽いことが示された。

表24 1週間のサークル等の活動時間

回 答 内 容	回答数	%
30時間以上	13	1.3
20時間から29時間	14	1.4
10時間から19時間	41	4.1
1時間から9時間	195	19.6
クラブ等に所属しているが、活動実績はない	164	16.5
クラブ等に所属していない	566	57.0
合 計	993	100.0

質問 25 Facebook や Line などの SNS（ソーシャル・ネットワークサービス）やインターネットの利用に1日あたりどれくらいの時間を充てていますか。

スマートフォン等で SNS 等を利用する学生をキャンパス内で見かけることが多く、SNS 等に費やす時間が多いと予想され、本項目を設定した。調査結果から、SNS を利用していない学生が4.7%いる一方で、1時間未満が31.0%、1時間以上2時間未満が30.2%、また、SNS に2時間以上を費やす学生が34.1%存在することは、当初の予想を超えて多かった。質問 23、質問 24 及び質問 26 では、学習時間、課外活動、スポーツにかかる時間が少ないことと対照的な結果であった。

表25 1日にSNS等に費やす時間

回 答 内 容	回答数	%
使用していない	47	4.7
1時間未満	309	31.0
1時間以上2時間未満	301	30.2
2時間以上3時間未満	140	14.1
3時間以上	199	20.0
合 計	996	100.0

質問 26 1週間にどれくらいの時間をスポーツや運動に充てていますか。

1週間当たりの運動時間は「ほとんど運動はしない」、「1時間未満」を合わせると78.2%にのぼり、学生の運動不足が心配される。

表26 1週間にスポーツ等に費やす時間

回 答 内 容	回答数	%
ほとんど運動はしない。	561	56.4
1時間未満	217	21.8
1時間以上2時間未満	102	10.3
2時間以上3時間未満	40	4.0
3時間以上	74	7.4
合 計	994	100.0

質問 27 アルバイトに従事している時間は何時間ですか。

大学入学後のアルバイト経験の有無と職種を質問 11 で訪ねている。本項目では、1 週間当たりのアルバイトに従事する時間を尋ねている。調査結果では、平日のアルバイトに従事する学生は 34.3%であり、1 日当たり 2 時間以上従事していることになる。週末や休日にアルバイトに従事する学生は、ほぼ 1 日をアルバイトに費やしていることが示された。本項目の回答率は他の項目と比べると低く、質問の意図が理解されていない可能性が考えられる。次回の調査では平日のアルバイトと週末や休日のアルバイトを分離して質問を設ける必要がある。

表27 アルバイトに従事する時間

回 答 内 容	回答数	%
平日のアルバイト時間の1週間当たりの合計		
していない	241	40.1
10時間未満	72	12.0
10時間～20時間	91	15.1
20時間～30時間	35	5.8
30時間以上	8	1.3
週末及び休日のアルバイト時間		
していない	39	6.5
0～5時間未満	18	3.0
5時間～10時間	64	10.6
10時間～15時間	18	3.0
15時間以上	15	2.5
合 計	601	100.0

F 回答者の健康と安全

本学では、毎年 4 月と 11 月に健康診断を実施している。所見のある学生の割合は多くはないが、一定の割合で存在し、健康指導を実施している。質問 28～35 では、それぞれの学生の生活習慣、身体や心の健康を維持する方法について

調査した。

質問 28 あなたの現在の健康状態について教えてください。

本項目では、各学生の健康に関する自覚症状または疾病の状況を尋ねた。その結果、約 9 割の学生が健康に大きな問題を抱えていないと判断していることが明らかになった。一方、2.6%の学生が重い自覚症状を持ち、その半分以上が治療を受けていないことは問題である。

表28 健康状態

回 答 内 容	回答数	%
特に問題を感じていない	686	69.2
軽い問題を抱えているが、治療を受けるほどではない	212	21.4
軽い問題があり、治療を受けている	68	6.9
やや重い病状があるが、治療を受けるほどではない	16	1.6
重い病状があり、治療を受けている	10	1.0
合 計	992	100.0

質問 29 喫煙の習慣はありますか。喫煙習慣のある人は 1 日に吸うタバコの本数を教えてください。

2020 年の東京オリンピック開催に向けて、受動喫煙問題が注目されている。本学では、キャンパス全体を分煙としているが、喫煙者数に関する全学的調査は行われたことがない。本項目では、喫煙者数について調査した。調査結果では、非喫煙者が 94.1%、喫煙者が 5.9%であった。たばこ産業株式会社が実施した「2018 年全国たばこ喫煙者率調査」によると、成人男性及び成人女性の平均喫煙率は、それぞれ 27.8%及び 9.1%である。喫煙者率を全国平均と比べると低い、大学では約半数が未成年者であること、さらに本調査では女性の回答率が男性より高かったことを考えると、極端に低いとは判断できない。喫煙に関するリスクの教育を充実させることが望ましい。

表29 喫煙習慣（1日当たりの喫煙本数）

回 答 内 容	回答数	%
タバコは吸わない	933	94.1
10本以内	37	3.7
11本から20本未満	14	1.4
20本以上	8	0.8
合 計	992	100.0

質問 30 キャンパス内での喫煙についてあなたの意見を教えてください。

喫煙者の健康問題だけでなく、非喫煙者の受動喫煙防止が問題となっている。本質問では、学生の喫煙マナーに対する考え方を尋ねた。その結果、「本学の現状を維持する」でよいと思う学生が 29.8%、「完全禁煙とする」が 31.5%、そして「完全分煙を実現する」という学生が 26.5%であった。キャンパス内の喫煙マナーを検討する上で貴重なデータである。

表30 キャンパス内での喫煙への意見

回 答 内 容	回答数	%
自由に喫煙できるようにするほうがよい	16	1.6
喫煙場所を増やし、喫煙者の便宜を図る	44	4.4
福山大学の現状を維持するのがよい	295	29.8
喫煙場所を減らして、受動喫煙を減らす	60	6.1
完全分煙を実現し、受動喫煙から守る	262	26.5
キャンパス内を完全禁煙とする	312	31.5
合 計	989	100.0

質問 31 飲酒の習慣はありますか。1 週間にお酒を飲む日数を教えてください。

飲酒習慣は喫煙習慣と共に、健康に影響を与える要因であり、アルコール飲料への過度の依存は社会問題ともなりうる。本質問では、学生の飲酒習慣について調査した。質問は 1 週間当たりに飲酒する日数を訪ねている。その結果、79.5%の学生が「ほとんど飲まない」と回答する一方で、4.3%の学生が 1 週間に 3 日以上飲酒していることが明らかになった。質問 29 と同様に、約半分の学生が未成年であることを考慮すると、学年別の飲酒習慣を調査することが望ましい。

表31 飲酒習慣（1週間当たりの飲酒日数）

回 答 内 容	回答数	%
ほとんど飲まない	787	79.5
1日から2日は飲む	160	16.2
3日から4日は飲む	21	2.1
5日から6日は飲む	12	1.2
ほぼ毎日飲む	10	1.0
合 計	990	100.0

質問 32 平均の睡眠時間はどれくらいですか。

2016 年度に経済協力開発機構（OECD）が実施した調査では、加盟国の平均睡眠時間は 8 時間 25 分、日本人の睡眠時間は 7 時間 22 分であった。質の高い睡眠は生活習慣病や心身症を予防する上で重要だと言われている。本項目では、学生の睡眠時間を調査した。その結果、表 32 に示すように、「5 時間未満」が 19.9%、「6 時間くらい」が 53.4%、「7 時間くらい」が 19.6%で、92.9%の学生が日本人の平均睡眠時間より少ないことが明らかになり、ほとんどの学生が睡眠不足の状態であることが分かった。

表32 平均の睡眠時間

回 答 内 容	回答数	%
5時間未満	197	19.9
6時間くらい	529	53.4
7時間くらい	194	19.6
8時間くらい	58	5.9
9時間以上	12	1.2
合 計	990	100.0

質問 33 地震、水害等の大規模災害が頻発しています。地震等の大規模災害が発生したときの家族との連絡方法を決めていますか。

阪神淡路大震災（1995 年）、東日本大震災（2011 年）、熊本地震（2016 年）、そして 2018 年 7 月の西日本豪雨など、大規模災害が多発している。そして本学にも影響がある南海地震、東南海地震ではマグニチュード 9 の地震発生が予想されている。このような状況にある中、学生の危機意識を調査するため、質問 33 では大規模災害発生時の家族との連絡方法について尋ねた。その結果、表 33 に示すように、連絡方法を家族と決めている学生は 21.5%と少なく、危機意識が極めて低いことが示された。2018 年に本

学で実施した全学的安否確認トライアルでは、安否を確認できた学生の割合は極めて低かった。実質的な安全教育を推進する必要がある。

表33 大規模災害発生時の連絡方法

回 答 内 容	回答数	%
対応を相談したことがない	354	35.8
連絡方法を決めておく必要はないと思う	46	4.6
連絡方法を決めておく必要があると思うが、まだ決めていない	377	38.1
連絡方法を決めている	213	21.5
合 計	990	100.0

質問 34 学生生活の中で、悩みはありますか。該当する事項があれば差支えがなければ教えてください。

質問 34 では、学生の悩みについて尋ねた、その結果、表 34 に示すように、14.6%の学生が「悩みは無い」と回答したが、そのほかの学生が、将来の進路や学修などに、多様な問題を抱えていることが示された。

表34 学生生活の中での悩み

回 答 内 容	回答数	%
学修のこと	403	22.5
サークル活動のこと	54	3.0
将来の進路のこと	416	23.3
家庭のこと	77	4.3
経済的なこと	195	10.9
自分自身の健康のこと	110	6.2
人間関係のこと	190	10.6
その他のこと	80	4.5
悩みは無い	263	14.7
合 計	1,788	100.0

質問 35 身体や心の悩みが生じた場合には、どのように対処しますか。

質問 35 では身体や心の健康に関する問題への対処方法について尋ねた。「自分で考える」と回答した学生が最も多く、32.6%にのぼった。自分で考えることは大切であるが、独りよがりや思い込みにつながり、適切な判断にたどり着くことが難しい可能性が高い。相談する窓口に誘うことが重要である。

表35 身体や心の悩みの対処

回 答 内 容	回答数	%
保健管理センターのスタッフに相談する	10	1.9
教員に相談する	4	0.7
友人に相談する	93	17.2
家族に相談する	94	17.4
医療機関に相談する	34	6.3
自分で考える	176	32.6
その他	15	2.8
わからない	114	21.1
合 計	540	100.0

G 回答者の人間関係

質問 6 及び 7 では、学生生活で大切にしているものを尋ねた。その結果、友人関係を大切にしている学生の割合が高かったことが示された。

質問 36、質問 37 では学生の人間関係について調査した。

質問 36 大学での友人について教えてください。

本項目では、友人との関係について尋ねた。その結果、85.1%の学生が趣味や話題を共有し、困ったことを相談する友人をもっていることが示された。一方、友人が少ない学生の多いことも示された。一方、友人が少ない学生の多いことも明らかになった。質問 39 では学内の施設設備について意見を求めているが、一人で休憩できる場所の充実を求める回答者は 142 人であった。

表36 大学での友人関係

回 答 内 容	回答数	%
何でも話せる友人がいる	174	42.3
趣味や話題を共有できる友人がいる	115	28.0
試験や学習などで困ったときに、相談できる友人がいる	61	14.8
大学の中で誰とも話さずに帰ることが多い	11	2.7
人付き合いが苦手で孤独感を感じる人が多い	12	2.9
一人でいることが好きなので、友人は少ない	38	9.2
合 計	411	100.0

質問 37 あなたの本学教員に対する印象について教えてください。

質問 36 では、友人について尋ねているが、本質問では本学の教員に対する印象を尋ねた。表 37 に示すように、約 5 割の学生が教員に対して「尊敬できる」「理解してくれる」「相談できる」という思いを持っている。一方で、その残りの学生が教員との関わり方が分からないとしている。

表37 本学教員に対する印象

回 答 内 容	回答数	%
あなたが尊敬できる教員がいる	142	18.8
あなたのことを理解してくれる教員がいる	53	7.0
困ったときに相談できる教員がいる	185	24.4
教員との関係で困っていることがある	22	2.9
教員とコミュニケーションの取り方がわからない	81	10.7
教員との関わりは特にない	274	36.2
合 計	757	100.0

H 大学への要望

大学の施設・設備に対する学生の要望を聞くために、質問 38 では改善を必要とする事項を施設・設備別に尋ねた。また、質問 39 では質問 38 について自由記述で具体的に回答を求めた。さらに質問 40 及び 41 では、大学行事の改善について、同様に具体的な意見を求めた。

質問 38 福山大学の施設や設備等について、改善が必要と感じることを教えてください。

質問 38 では、施設・設備ごとに施設・設備の改善の必要性の有無について尋ねている。その結果、16.4%の学生が「改善を要することが思い当たらない」と回答し、満足していることが示された。一方で、スクールバスの運行など、色々な施設・設備に改善の要望があることが判明した。

質問 39 質問 38 の回答で挙げていただいた施設や設備等の改善について、それを具体的に教えてください。

質問 38 で尋ねた改善必要項目について自由記述での回答を求めた。その結果、全体で 710 件

表38 大学の施設・設備の改善への提言

回 答 内 容	回答数	%
スクールバスの運行について	398	21.7
教室の設備(音響・黒板等)について	243	13.3
食堂や喫茶の設備や利用時間について	141	7.7
食堂や喫茶のメニューや価格について	173	9.5
売店やコンビニの品揃えや利用時間について	198	10.8
図書館の蔵書について	33	1.8
図書館の利用時間や利用方法について	43	2.3
スポーツ関係の施設・設備について	68	3.7
休憩場所について	142	7.8
その他	91	5.0
改善を要することは思い浮かばない	300	16.4
合 計	1,830	100.0

表39 福山大学の諸行事等への改善提案

回 答 内 容	回答数	%
入学式	38	3.5
新入生合宿オリエンテーション	84	7.7
学長杯争奪競技大会	52	4.7
三蔵祭(大学祭)	257	23.4
学位授与式(在学生の立場での意見)	19	1.7
入学試験	19	1.7
その他の行事	22	2.0
特にない	607	55.3
合 計	1,098	100.0

に及ぶ意見や要望が出された。回答者が複数項目にわたる内容を記載している場合は、それぞれを別の意見として集計した。その記述内容は膨大な量であるため、表 40 にまとめ、本報告書末に添付した。

質問 40 福山大学の諸行事等で、さらに工夫を加えればもっと素晴らしい行事になると思うことがあれば教えてください。

質問 40 では、大学主催の諸行事について、改善の必要性の有無について尋ねた。その結果、「特にない」と回答した学生が 55.3%であり、半分の学生が満足している、あるいは問題意識を持っていないことが判明した。その一方、188 件の改善への提案が記載された。中でも大学祭

(三蔵祭)に関する提案が最も多く、学生にとって、大切な行事となっていることが示された。

質問 41 項目 40 の回答で挙げていただいた行事の中から一つを選び、どのような工夫があるのか具体的に教えてください。

質問 40 で尋ねた改善必要項目について自由記述での回答を求めた。その結果、全体で 188 件の意見や要望が出された。回答者が複数項目にわたる内容を記載している場合は、それぞれを別の意見として集計した。その記述内容は膨大な量であるため、表 41 にまとめ、本報告書末に添付した。

6. 集計結果から推定した本学学生の傾向

学生生活アンケート調査では、41 の質問に対して、学部学生の 27.3%に相当する 1,016 人の学生が回答を寄せてくれた。回答内容及び回答数を検討すると、真摯な態度で回答して頂いたことが伝わってきた。回答者の所属学部、学年、性別などに偏りが認められることや学生一人ひとりが個性を持つことを考慮すると、本調査の結果から福山大学の学生像を創造することは危険である。したがって“〇〇のような学生の割合が高い”という表現にしかならない。しかし敢えて、本調査の結果から、回答数が比較的多い回答内容をつなぎ合わせることで、大まかな学生像を以下のように推定してみた。

『福山大学の学生は、大学での学修や研究を第一目的として在籍している。サークルやクラブ活動、そして大学行事にも参加しているが、それらに青春のすべてをかけているのではなく、友人や仲間づくりでもありと考えている。大学では信頼できる友人や先生とある程度のコミュニケーションを取っている。1 日の中では授業の他に最も時間を費やしているのはアルバイトや SNS である。主に休日や週末にアルバイトをしているが、経済的に困窮しているわけではなく、アルバイト収入は専ら食事や衣類の購入、娯楽や趣味に費やしている。飲酒はたまに付き合い程度、自分はたばこを吸わないが、他

の人が吸うのはマナーを守ってくればあまり気にしない。スポーツなどで体を動かすことはほとんどないが、健康面では概ね問題はない。自然災害が身近で多発しているが、福山は自然災害の少ない地域なので、それほど心配していない。大学にお願いしたいことは通学時に利用するスクールバスを増便すること、大学祭で人気アーティストを呼んでほしいこと、かな!』

上述した平均像は、本学の学生的一部分と認識して頂きたい。

おわりに

福山大学では、学生委員会が大学の施設設備の改善についての要望を聞くためにアンケート調査を実施してきた。今回のアンケート調査は初の学生生活全体の調査となった。回答率が低く、また集計データの取扱い上、クロス解析ができなかったことなどから、精度に問題が残されている。また、質問内容や表現についても改善すべき点を実施した後に散見されるなど、問題も少なくない。しかし、今回の調査を起点として、継続的に実施することで、大学に求められる改善点が抽出されてくることは間違いない。今後とも本調査を発展的に継続し、大学改革の貴重な資料をしていただきたい。福山大学学生生活アンケート調査を実施するにあたり、ご尽力いただいた下記の皆さんに謝意を表します。

学生委員会 研究小委員会

委員長 山本 寛 (生命工学部)

委員 Bisset Ian James (経済学部)

委員 内垣戸 貴之 (人間文化学部)

委員 尾関孝史 (工学部)

委員 田辺 和康 (工学部)

委員 井上 裕文 (薬学部)

共同利用センター ICT サービス部門

片桐 重和

学生委員会 委員長

田中 哲郎